

性であった。腺腫は、各種レクチンの染色態度からクラスター分析にて2つの群(A群;13例, B群;9例)に分けられた。各群間RCA, PNA, PNA-Nで有意差が認められたが、臨床データ(性別, 年齢, 血清Ca, 血清IP, 摘出腺腫重量)では有意差は認められなかった。今後、症例を重ね検討する予定である。

原発性上皮小体機能亢進症における尿路結石形成に及ぼす因子について: 吉岡俊昭, 山口誓司, 宇都宮正登, 小角幸人, 小出卓生, 園田孝夫(大阪大) 原発性上皮小体機能亢進症(PHPT)の術前19例, 術後20例について, 尿PH, Ca, 無機P, 尿酸, Mg, クエン酸, 尿酸の排泄量の変化ならびに尿酸Ca結晶凝集促進作用の変化について比較検討した。結晶凝集促進作用の測定法は第75回総会で報告した通りである。その結果, 尿中結石形成関連物質の中ではCa, クエン酸の排泄が術後有意に減少, 他の物質は有意な変化を示さなかった。又, 術前19例中15例に認められた結晶凝集促進作用は術後20例中全例に消失していた。これらから, PHPTにおける結石形成において, Caの過剰排泄がrisk factorであるものの, 術後の結石形成の著明な減少は結晶凝集促進作用の是正によるものであると考えられた。

質問: 奴田原紀久雄(東京大) 尿酸Ca結晶凝集促進作用を骨型や化学型の副甲状腺機能亢進症で観察されていたらその結果を御教示下さい。

答: 吉岡俊昭(大阪大) 骨型, chemical型との比較は課題ではあるが未だ検討はしていない。

質問: 片岡喜代徳(泉大津市立) 結晶凝集促進作用を検討する場合, 結晶数が問題となり, それが一定でないとなれば本来の凝集促進能は検討できないのではないか。

答: 吉岡俊昭(大阪大) 今回は, crystal volumeについては検討していないが, 正確なaggregationを測定する方法の確立は重要な事である。

質問: 西尾俊治(愛媛大) 1. 結晶作成時におけるincubationの方法は? 2. PHPTの中に尿中Ca排泄の少ない人がいるが, 尿中Ca排泄が少なくても結石ができるメカニズムをどのように考えるのか? 3. Coulter Counterでは結晶凝集しているか, 大きな結晶ができていないのか区別できないが, すべての検体について検鏡して確認しているのか?

答: 吉岡俊昭(大阪大) 1. 結晶凝集であるかどうかは顕微鏡による確認しかない。2. 過カルシウム尿でも結石のできない人もいるし, 正カルシウム尿でも結

石のできる人はできる。これは結石形成そのものが, 尿中カルシウムの多少によるよりも, 結晶凝集といった別の要因の方が重要である証拠である。

尿路結石症に対する食事指導の適応を決定するために外来で行える検査食: 井口正典(市立貝塚), 梅川徹, 石川泰章, 片山孔一, 児玉光正, 高村知諭, 高田昌彦, 加藤良成, 片岡喜代徳, 郡健二郎, 栗田孝(近畿大) ESWLの発達により入院期間は短縮され, 従来入院中に施行されてきた結石の発生原因に関する精査は非常に施行しにくい状況となっている。そこでスクリーニング法として, 外来で実施可能な検査食を考案した。検査食は栄養学的にバランスのとれた食事であり, 3日間の献立材料が(株)タイヘイから全国各地に宅配される(1日¥1,000)。検査食摂取3日目に蓄尿させ, 自由食下の蓄尿と比較。Ca, 尿素窒素, リン, 尿酸, Na排泄量は検査食摂取によって有意に減少したが, 尿酸, クエン酸, Mg排泄量は変化せず, 自由食下で過Ca尿症($\geq 300\text{mg}$)の9名中6名は検査食摂取によりCa排泄量は正常化し, 食事性過Ca尿症と診断。2名は腸管過呼吸型または腎漏出型に, 食事性が加味されたもの, 1名は腎漏出型過Ca尿症と診断した。詳細は近日中に論文化予定。

質問: 西尾俊治(愛媛大) 正カルシウム尿症, または尿化学上, 特に異常のない人にも検査食を食べさせるのか?

答: 井口正典(市立貝塚) 正カルシウム尿症など, 尿中諸物質排泄量が正常の症例に, この検査食を食べさせる必要はないかもしれません。今回の検討では正Ca尿症症例が検査食を摂取することで尿中Ca排泄量がどの位変化するのかを観るために, 正Ca症例にも検査食を摂取させましたが, 検査食を食べた印象は, 過Ca尿症々例とはずいぶん違ったものであった。すなわち栄養学的にバランスのとれた検査食を摂取させることにより, 普段の食生活の問題点を自覚させることができるという点で, 正Ca尿症患者に検査食を食べさせる意義はあると考えます。

スポット尿を用いた尿中結石関連物質の測定に関する検討: 松尾栄之進(松尾) 当院では上部尿路結石患者のスクリーニングテストとして早期スポット尿による結石関連物質測定の有用性について検討を加えたので報告する。対象は健康成人男子23名をcontrol群とし, 当院通院中の男子再発性上部尿路結石患者20名と長崎原爆病院入院中の男子上部尿路結石患者32名とした。早期第1回尿, 朝食前早期第2回尿のスポット